

「住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまち」を目指して



北九州市消防局長 月成 幸治

北九州市は、昭和38年に門司、小倉、若松、八幡、戸畑の五市の対等合併を経て、都道府県庁所在地以外では初めての政令指定都市として誕生しました。

当市は、4大工業地帯の一つとして公害問題に直面し、市民と行政、企業、研究機関が一体となって取り組み、公害を克服しました。また、政令指定都市の中で最も高齢化率が高いことから、高齢社会に向けた対策にも先駆的に取り組んできました。

このような取り組みが評価され、平成23年12月、環境問題や超高齢化などの社会的な課題に取り組むモデル都市として、内閣府から「環境未来都市」に認定されました。

このモデル都市の指定や医療機関の多さ、物価の安さなどが評価され、「50歳から住みたい地方ランキング（民間雑誌）」で2年連続して全国第1位に選ばれました。

また、出産環境や小児医療など、充実した子育て環境も評価され、「次世代育成環境ランキング（NPO調べ）」において、8年連続して政令指定都市で第1位となるなど、「暮らしやすさ」「住みよさ」が、高い評価を受けています。

さらに、平成30年には経済開発協力機構（OECD）から、アジアで初となる「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定されるなど、当市の「人にやさしく元気なまちづくり」は、国内外からも注目を集めているところです。

前述のとおり、当市における高齢社会への対策は、消防行政についても喫緊の課題であり、住宅火災による死傷者や救急搬送に占める高齢者の割合が高いため、当局では高齢者への対策を重点的に取り組んでいます。

具体的な対策として、介護職員初任者研修を修了した消防団員が中心となり、防火・防災や家庭内での事故防止の指導、簡単な身の回りのお世話、福祉に関する相談を関係機関につなぐ等の支援を行う「いきいき安心訪問」を、一人暮らし高齢者世帯等を対象に平成8年度から行っています。

また、従前の火災や救急事故に即応するための通報装置に、相談機能と駆け付け機能を付加した「あんしん通報システム」を平成29年度から導入しました。

これに加え、早期の避難に有効な住宅用火災警報器は、定期的な清掃や点検、更新の呼び掛け、無線連動型の普及促進などの施策と並行し、自身や家族による設置が困難な高齢者世帯等については、消防隊による取付け支援を平成30年9月から開始しました。

さらに、高齢者の健康寿命に大きな影響を与える、骨折などの一般負傷の多くが家庭内で発生していることから、家庭内での転倒・転落による負傷や、ヒートショックなどを未然に防ぐため、小冊子「転ばぬ先の知恵」を平成30年9月に作成し、講習会を行っています。

これら多様な取り組みを通じ、高齢者が「住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまち」を目指しています。

結びに、当市において「第49回全国消防救助技術大会」の開催が、10月24日（土）に予定されています。

北九州市外から訪れる多くの皆様に、楽しんで参観していただくため、万全の体制で準備を進めています。

是非、「日本一住みよいまち」を目指す北九州市にお越しいただき、当市の魅力を感じていただきたいと思います。

